



四季想「怨情」…………… 1

熊本地震が投げかけた災害時の食と問題提起 —12の提案

……………奥田和子 2

阪神・淡路大震災での被災を契機に災害時の食の研究をしてきた中、5月初旬に益城町の避難所で仲間と炊き出しを行い、町役場等を対象に調査、電話取材等を行い、問題点を分析した。熊本地震の食の様子が阪神・淡路大震災当時とほとんど変わらないと実感したことを背景に、本稿では12項目にまとめて熊本地震の問題提起を試みる。

企業最前線～経営者に聞く～⑤③

……………エバラ食品工業株式会社 19

超高齢化・世帯人数の減少・有職主婦の増大・人口減・社会の成熟化に伴うお客様のニーズの多様化という5つの社会変化に対し、ブランドの価値向上とニッチ&トップ戦略の2つの戦略を柱に経営をすすめる。容器でイノベーションを図った「プチッと鍋」の伸長は、社会変化に適合した価値を提案することができた事例と考える。

缶詰見聞・体感録 第70号

ツナの魅力は底なし

……………黒川勇人 21

ニュースファイル(2016年9月)…………… 24

❖放射路

食品・流通…………… 34

鮭鱒工船だった信濃丸の数奇な一生

～いま日本の海洋力を問う～(全11回)

第10回 沖取工船信濃丸

……………宇佐美昇三 36

1930年代に北洋で鮭鱒缶詰を製造した工船の代表、信濃丸、その前身は北米航路の華やかな定期船だった。日露戦争では仮装巡洋艦、晩年は引揚船と役割を変えた。本稿は、数奇な船歴を経た「信濃丸」のあとを遡り、日本の海洋力の将来を考える。

ニュース&トピックス…………… 48

缶詰、びん詰、レトルト食品生産数量

(2016年1～6月期1次集計分速報)

…………… 53

2016年1～6月期の缶びん詰生産は108万トン(16,880万箱・実箱)で、前年対比108.5%となっている。内訳は、丸缶104万トン、16,308万箱(飲料を除いた丸缶では8.4万トン、1,148万箱)、大缶1.3万トン、75万箱、びん詰2.4万トン、496万箱となっている。レトルト食品の生産は、13.7万トン(2,043万箱)で前年対比96.9%となっている。

こちらケベックNo.246

……………リシャル・ミッシェル、浜垣有加里 79

缶詰、びん詰、レトルト食品全国販売データ

2016年9月品目別商品別金額シェア

…………… 85

缶詰短信……………28 主任技術者コーナー……………78

魚肉ソーセージコーナー……………41 日本介護食品協議会コーナー……………84

缶詰輸入情報……………42 研究所だより……………95

缶詰輸出情報……………44 協会日誌……………96

缶詰関連統計情報……………46 編集後記……………98

海外ジャーナル……………76

表紙カット (株)日本出版制作センター
レイアウト 澄田 静